

# 居合道 だより

第125号



## はじめに

早いもので今年も残り一ヶ月をきった。今年是世界中を、特に日本列島を相次いで大きな地震が襲った。

4月に熊本、10月に鳥取、そして先月はまたしても福島沖。福岡沖でも発生した。どう考えても一昔前より多い気がする。「地震の巣」が世界中に散在しているのに、ましてや後始末の方法も確立していないのに、5年前の福島の教訓を忘れたかのように原発などにうつつを抜かす人類への天の警鐘だと思うのは私だけだろうか。

我が居合道部は今年一年大きな目標を掲げて活動してきた。

県居合道大会は盛大かつ楽しく行われたし、剣道大会や各種イベントでの居合道演武もあちこちでこなしてきた。チラシもいろんな公共機関においてもらったりと広報活動に力を入れてきた。とりわけホームページ充実の効果は想像以上で、初心者体験教室は例年より受講生が増えてきた。特に今年はイギリスやフランスに加えエジプト、ロシア、ルーマニア、インドネシア等諸外国の人々が居合道を始めてくれたことは嬉しい限りである。

これらのことから、それぞれの事業活動が相乗効果を生み始めた実感できる。しかしそれだけで満足してはいけない。色んな事業を始めてから確実に成果が現れてきたが、決してそれ自体が目的ではない。それらはあくまでも居合道発展のための方法であり手段なのである。

安土桃山時代、天下統一を目指した豊臣秀吉は大阪城を築城するため、全国各地から様々な職人集団を大阪に集めた。先ず石垣作りのため石工集団が働き始めた。石も全国各地から集められた。最も大きな石は桜門に設置された130トンの巨岩である。大小様々な石を堅牢に積み上げていくある石工集団の頭に問うた。「あなたは何を作っているのですか？」頭は得意げに胸を張って答えた。「決まっているだろ！日本一の石垣を作っているのさ！」。

# はじめに



またさらに別の石工集団の頭に同じことを問うた。その頭は遠くを見やるように目を細め、静かにしかし力強く答えた。「天下一の城を作っているんだよ」と。



# 主な活動と12・1月の予定

## 主な活動

- |        |                        |                 |
|--------|------------------------|-----------------|
| 11月12日 | 剣道・居合道・杖道教士称号筆記試験（全剣連） | 東京都・愛知県・神戸市・福岡県 |
| 11月19日 | 居合道6・7段審査会 全剣連         | 東京都             |
| 11月27日 | 居合道部稽古会・級審査会           | 福岡武道館           |

## 12月・1月の予定

- |         |         |       |
|---------|---------|-------|
| 1月9日（祝） | 居合道初稽古会 | 福岡武道館 |
|---------|---------|-------|



2016年の初稽古会



## 千代剣友会 五段 百岳 研治

千代剣友会の百岳先生へインタビューしました。

問：失礼ですが今いくつですか？

答：今数えて93歳になりました。

問：先日審査を受けられて見事合格おめでとうございます

答：先日の審査で居合道五段取得しました。

問：居合道入門のきっかけは？

答：以前は剣道も五段までしており、友人の藤瀬先生に誘われ居合道に入りました。

問：居合道は入門して何年になりますか？

答：居合道歴は約30年（昭和61年入門）になります。

武道館の1期生で野正先生、藤瀬先生、坂井先生の指導を受けました。四段までは順調に行きましたが、その後家庭の事情で、しばらく休みましたが、千代剣の立ち上げ時に古館先生から誘われて、千代剣友会の方でやっております。

問：今後の目標は

答：今後の目標は、もう歳も93なので、まずは健康保持！もう一つは年寄りでもいつまでも頑張るとるよ！と皆さんのはげみになればとおもいます。

なかなか膝も悪くて座技がうまく行きませんが再開して、千代剣友会の階段を（稽古場がビルの4F）登るのがやっとでしたが、なんとか頑張っていこうと思っております。今もなかなか座技ができませんが、なんとかできるように稽古しようと考えております。

私にとって居合道は「生涯の友、健康の源」と思っております。

インタビュアー小田、高津

## 全日本出場 初陣

廣房 憲治

第51回全日本居合道大会会場になった東京武道館は、剣道大会で思い出のある場所でありました。その会場で試合ができることも楽しみの一つでした。八月に大会会場に行くか機会ができ、六段の試合場になる場所に立ってイメージを膨らますことができました。

六月に選手決定。10月22日のその時をイメージして稽古をしてきました。自分に足りないものや欠けているものに気づかされる強化錬成会はいままでにない経験でしたがきついなとも感じたこともありました、しか

し、今の努力は、必ず自分の血となり肉となるのだと信じていました。以前、指導いただいるなかで「実現への道」という心構えの文章をいただき、それを読んで考えることを繰り返してきました。会得した技を人間性が判断する審判員に届くように稽古をするしかない。

最後は仮想敵をぶった切ってやると心に決めて緊張感に満ち溢れた大会を楽しませていただきました

たくさんの方の支えがあつての出場できたと思います、毎週の錬成会においてご指導いただいた先生方、強化委員会の先生方、吉田監督に感謝申し上げます。

### 初出場所感

荒木正亨

第51回全日本居合道大会初出場にあたりまして所感を述べさせていただきます。

この度の第51回全日本居合道大会の代表に選出して頂いた時は、私自身が出場出来るとは思っておらず、驚きと同時に昨年優勝選手に代わって出場するという事の重責を感じておりました。また私自身の仕事を取り巻きます環境が劇的に変化した事もあり大会に臨むメンタル面で不安を抱えておりました。しかしながら、選手として選出して頂いたからには福岡県の代表として恥ずかしくない演武をしようと思い、定例稽古は勿論の事、日曜日に行われておりました強化稽古会と正に居合を中心にした生活となり、強化稽古会では、無駄な動きを省き癖を矯正して頂く指導が中心で最初は苦労しましたが、そのおかげで時間内に演武を収める事が出来るようになりました。

大会前日の稽古では床の状態を確認する稽古が出来、集中力を高める様に努めました。大会当日は、他県の選手よりも早く稽古場に入りしっかりと身体をほぐして初戦へ備えました。試合場に入ると、県外での大会の上位入賞選手の方々が多く正に最高峰の大会であると感じました。私自身、初段の頃より各地の大会へ出場して場数は踏んでいたつもりでありました。しかしながら会場の独特の空気感もあつてか、自身の試合が近くなるにつれ、緊張感も最高に高まり試合場に入った瞬間頭が真っ白になりましたが、四方八方から向けられる気迫に押されない様に全力を出す事に傾注しました。その結果、2回戦、3回戦と駒を進める事が出来ましたが、4回戦において失敗をしてしまい改めて、最後まで気を途切れさせない事が重要である事を痛感致しました。

今回多くの課題を見つける事が出来、次の目標が出来た事が私自身の成果ある大会であったと感じております。

最後になりますが、いつも稽古で御指導下さいます、波止先生、三角先生、小川内先生、道場の皆様、強化稽古会で御指導頂きました八段の先生の皆様、吉田監督と強化稽古会のメンバーの方々、遠くから何時でも気にかけて下さいます皆様に感謝を申し上げ、全日本大会の所感とさせていただきます。



## 千代剣友会

当初五段あたりの居合道好きの数人が揃って結成された千代剣友会は今では数々の大会で優勝争いにまで絡む名選手の輩出して来ています。

現在教士七段 古館先生を筆頭に、稽古場所は 千代の福岡市民体育館(火曜、木曜)と篠栗の五十周年記念体育館です。

会員数は約50人以上とかなりの大所帯で女性会員も多い。

今年の入会者が約10名、その他居合道初心者講習会受講者が4名受講しています。会員は交通の便の良さからかなり遠いところの方も多く集まっています。練習は各自の練習、基本、指導者の人数が少ないため12本揃い抜きなどを重点に、その後は同じぐらいの段位や技などをお互いに磨きあっています。

月曜、土曜日は子供も多く、すごく活気があり、指導者含め、皆さん本当に優しい方が多いので、雰囲気もあまりピリピリせず、それでいて皆さん自主的に自分を磨くことに集中できるので、初心者でも始めやすく、おすすめの道場です。 [詳しくはウェブサイトにも掲載しております。](#)



福岡市民体育館 (地図クリックで google map へ)



篠栗五十周年体育館 (地図クリックで google map へ)

## 第51回全日本居合道大会 観戦記

平成28年10月22日(土)、綾瀬の東京武道館において、標記大会が実施された。

連覇を目指す、我が福岡県代表は、吉田初喜監督をはじめ、和泉修二選手(七段の部)・廣房憲治選手(六段の部)・荒木正亨選手(五段の部)の三名が出場した。審判長による指定技は3本目(受流し)・7本目(三方切り)・9本目(添えて突き)の発表があり、大太鼓の轟きとともに、試合が開始された。

五段の部、荒木選手の初戦は、やや硬さがみられたものの、持ち前の豪快さで初陣の勝利をもぎ取った。2回戦・3回戦と順調に勝ち上がってきたが、京都府の石橋選手に惜敗した。

六段の部、廣房選手は、2回戦からの出場で初陣の重圧の中 埼玉県の田口選手に、息詰まる対戦のすえ、惜しくも敗れた。

七段の部、抜きつけの鋭さが光った和泉選手は、1回戦・2回戦と勝ち上がり 茨城県の関選手と手に汗握る対戦となり、僅差で敗れた。

大会の結果は、団体の部で、東京都が第一位、第二位神奈川県、第三位京都府で、福岡県は、第十位であった。

閉会式終了後、吉田監督は、初陣の選手達に、「これが全日本大会だ。ここで学んだことを生かして 次回につなげるように。」と少しホッとした表情で話していたことが、印象的であった。

野田 尚徳 記

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第125号 平成28年12月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-084